

小浜市コウノトリビジョン



国富地区で撮影されたコウノトリのヒナと親鳥（昭和 30 年代）



小浜市

令和 6 年 3 月

目次

はじめに.....	1
ビジョンの背景と趣旨.....	1
ビジョンの期間.....	2
ビジョンの目標.....	2
なぜコウノトリなのか.....	2
ビジョンの目標.....	4
ビジョンの位置づけ.....	4
現状と課題.....	6
小浜市へのコウノトリの飛来と繁殖.....	6
コウノトリの餌場環境整備.....	8
コウノトリをシンボルとした多面的取組み.....	11
基本方針.....	13
ビジョンの基本方針.....	13
ビジョンの全体イメージ.....	14
個別の方針.....	16
コウノトリが生息できる自然環境の創出.....	16
環境にやさしい農業の推進と農地の保全.....	17
コウノトリと共生する人づくりと経済循環の創出.....	18
資料編.....	20
小浜市コウノトリと共生する郷づくり推進協議会設置要綱.....	22
小浜市コウノトリと共生する郷づくり推進協議会 委員名簿.....	24

はじめに

◆ ビジョンの背景と趣旨

小浜市は古代より、若狭湾からの豊富な海産物や塩を朝廷に献上した「御食国（みけつくに）」として知られています。小浜市では、平成14年4月1日に「食のまちづくり条例」を制定し、ウェルビーイング＝「食で人々の幸せと地域の豊かさが実感できるまち」をキーワードに「食」のまちづくり推進に努めています。古代から豊かな食文化を有する小浜市ですが、それらを育む基礎となったのは、地域の豊かな自然環境です。そこには多様な生き物が生息しており、国の特別天然記念物コウノトリもその1つです。

日本国内の野生コウノトリは、明治時代の狩猟による乱獲、昭和初期の営巣に適したマツの高木の伐採、そして戦後の農薬による餌の減少や繁殖能力衰退等の影響により数を減らし、昭和46年に一旦絶滅しました。小浜市国富地区は、野生絶滅直前の昭和36年から昭和41年にかけて、国内最後の巣立ちとふ化が確認された場所です。

国富地区は、北川の中下流域に形成された沖積平野とその周辺を山が囲み、地下水に恵まれた広大な水田の広がる地域です。このような自然環境が、餌となる多様な水辺の生き物を育み、国内最後の巣立ちを支えた要因として考えられます。

旧国富小学校には、現在も剥製や当時の子どもたちの観察記録が大切に保管され、コウノトリ絶滅の過程を現在に伝える大切な資料となっています。現在、市内では再びコウノトリを呼び戻そうと自然再生活動が市民を中心に行われており、環境保全活動を推進することで、今後複数の地域でコウノトリの継続的な繁殖が期待できます。

小浜市のコウノトリとの古くからの縁そして地域の自然環境を結び付け、守り伝えていくことは、小浜市の特色である豊かな「食」を育む基礎を守ることにもつながります。本ビジョンは、小浜市に縁の深いコウノトリをシンボルに「食」のまちづくりを支える豊かな自然環境を保全し、次世代に伝えることを目指し策定するものです。



国富地区での営巣の様子
(昭和30年代)



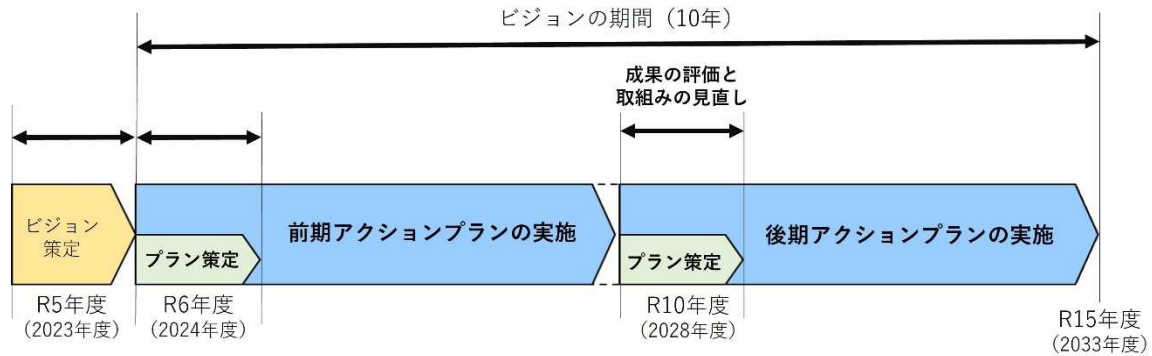
国富地区を飛翔するコウノトリ
(昭和30年代)



旧国富小学校に残る観察記録

ビジョンの期間

このビジョンの期間は令和6年度（2024年度）から10年間とし、令和6年に具体的な取組項目を定めたアクションプランを作成し、5年後の令和10年度（2028年度）に見直しを行います。



ビジョンの目標

◆ なぜコウノトリなのか

小浜市の自然環境保全を推進していく中で、コウノトリをシンボルとする主な理由は以下の3点があげられます。

① 人々に親しまれ小浜市と縁が深い生き物です

ヨーロッパでは、赤ちゃんを連れてくるという言い伝えがあり、日本では松の木にとまるコウノトリが長寿や夫婦円満を象徴する縁起の良い鳥として知られています。

また、小浜市は絶滅する以前に最後まで野生個体が繁殖していた場所の一つです。さらに、羽賀区の羽賀寺は、鳳凰が飛来しその羽を落して行った霊場として知られ、この鳳凰はコウノトリではないかという説があり、小浜市は古くからコウノトリと縁の深い地域です。



掛け軸に描かれた鶴と松



市内に保管されているコウノトリの剥製



国富地区の羽賀寺

② 豊かな自然環境の指標となります

コウノトリは、翼を広げると 2mにもなる肉食性の鳥類でドジョウ等の魚類、カエル等の両生類、バッタ等の昆虫類に加え、ヘビやネズミ等、様々な動物を餌としています。また、1日に1羽あたり 500g程度の餌が必要（飼育下での例）とされ、野生で生息するためには、多くの生き物が生息できる豊かな自然環境がなければ生息できません。したがって、コウノトリの生息は、自然環境の豊かさを示す指標となることから、コウノトリと縁のある地域では、自然環境保全や環境にやさしい農業のシンボルとして取り上げられています。



トンボを捕食するコウノトリ



カエルを捕食するコウノトリ



ヘビを捕食するコウノトリ

③ 地域の暮らしを考え・守るきっかけになります。

私たち人間の生活は、食料、水、大気、土壌等様々な自然からもたらされる恵みによって成り立っています。特に小浜市の特色である「食」については、豊かな地域の自然環境によって育まれます。また、コウノトリは、水田を主な餌場としており、「食」を育む場所と密接な関係を持っています。

小浜市に縁が深いコウノトリをシンボルとして自然環境を守り、次世代に伝えていくことは、小浜市の豊かな食文化と人々の生活を持続的に維持していく地域社会の構築につながります。



コウノトリと共に行う農業



食文化を伝えるキッズ・キッチン事業



有機米を食べる小学生

◆ ビジョンの目標

このビジョンでは以下の目標を掲げ、取組みを推進していきます。

自然・食・農が融合し人もコウノトリも豊かに住み続けられる小浜市

◆ ビジョンの位置づけ

このビジョンは「小浜市総合計画」（令和3年3月策定）、「小浜市環境基本計画」（令和4年3月策定）、「小浜市第4次食育推進計画（食のまちづくり計画）」（令和4年3月策定）および「小浜市里山創造計画」（平成30年3月策定）等の各種計画の事業を補完し、効果をより高めようとするもので、多様な事業と連携・協働し取り組んでいくことを基本としています。

トピックス

コウノトリは鳴く？

コウノトリはヒナの時は鳴きますが、成長するにしたがい鳴かなくなり、くちばしをカスターネットのようにカタカタと打ち鳴らしてコミュニケーションをとるようになります。これを「クラッタリング」と言い、大人になるとクラッタリングしかできなくなります。

出典：兵庫県立コウノトリの郷公園。



クラッタリングについての
解説動画が見られます。

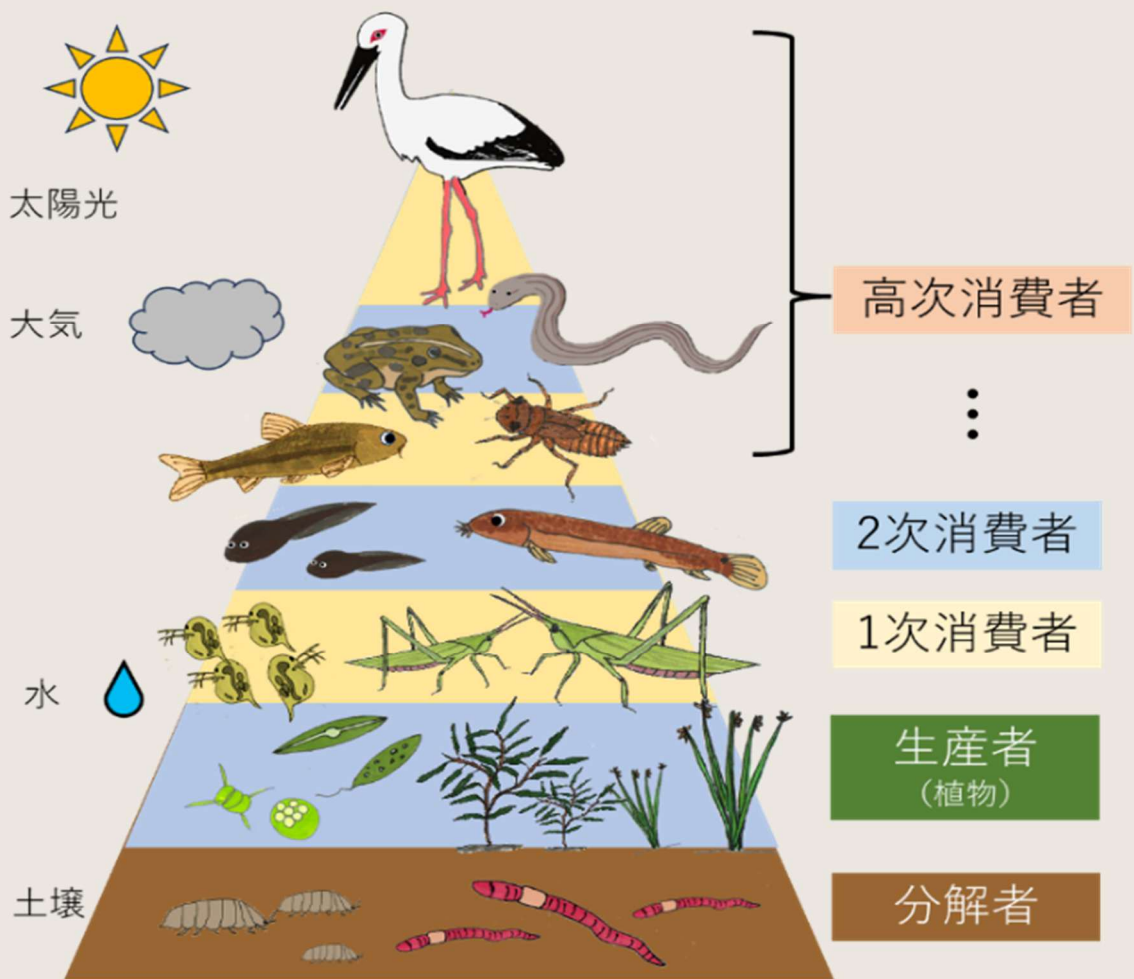
コウノトリがクラッタリングをする様子（写真：福井県提供）

トピックス

コウノトリが暮らす環境の生命のつながり

自然界で生き物は、土壌、大気、水、太陽光などの環境のほか、食べたり、食べられたりする関係でつながってバランスをとりながら生きています。この自然環境と生き物のつながりを「生態系」といいます。この様子を図に示したのが生態ピラミッドです。コウノトリは、肉食の鳥で1日にたくさんの動物性の餌が必要なピラミッドの頂点に位置する高次消費者です。

コウノトリの餌となるヘビやカエルなども肉食の生き物なので昆虫などの餌がたくさん必要です。肉食の生き物の餌となる下位の消費者となる動物は、さらに小さな動物や生産者である植物を食べます。コウノトリを頂点とした生態ピラミッドには、餌となる動物からその餌となる動物、そして植物、プランクトンや土壌中の微生物など、多様な生命のつながる豊かな生態系が必要です。



コウノトリを頂点とした生態ピラミッドのイメージ。

現状と課題

◆ 小浜市へのコウノトリの飛来と繁殖

【現状】

日本のコウノトリ個体群は昭和 46 年にいったん絶滅し、兵庫県のコウノトリの郷公園や東京都の多摩動物公園等で人工繁殖が進められ、平成 17 年から野外への放鳥が始まりました。その後、放鳥個体等の野外繁殖が進み、現在、野外個体は 371 羽（令和 5 年 7 月末現在）に達しています。

コウノトリが頻繁に飛来する国富地区では、繁殖のための人工巣塔も 3 基設置されました。令和 3 年にはそのうちの 1 基で野外コウノトリの誠（J0206 オス）とはるか（J0196 メス）の 2 羽が繁殖し、57 年ぶりとなる 3 羽のヒナの誕生と 60 年ぶりとなる巣立ちが確認されました。その後も毎年繁殖が確認され、令和 5 年度までに 10 羽の幼鳥が巣立ちました。



誠（オス）とはるか（メス）（R4. 3. 16）



人工巣塔で確認された交尾行動（R5. 2. 4）



令和 5 年に誕生した 3 羽の幼鳥（R5.6.9）



親鳥の巣立った幼鳥への給餌（R5. 6. 20）



1号人工巣塔



2号人工巣塔



3号人工巣塔

小浜市内に設置された3基の人工巣塔

【課題】

- ・ 現在、野外コウノトリは、通年にわたり市内に定着しておらず、繁殖期以外の餌量（特に冬期）が十分でない可能性があります。
- ・ コウノトリはなわばり意識が強い鳥であるため、市内に複数ペアが繁殖した場合に備え、なわばりが重ならないよう餌場環境整備や人工巣塔の設置等を計画的に進めていく必要があります。
- ・ 小浜市へのコウノトリの飛来は、国富地区を中心とした地域で確認されています。安定的な定着と繁殖を実現するためには、餌場環境整備などの自然再生を市内全域に拡大していく必要があります。

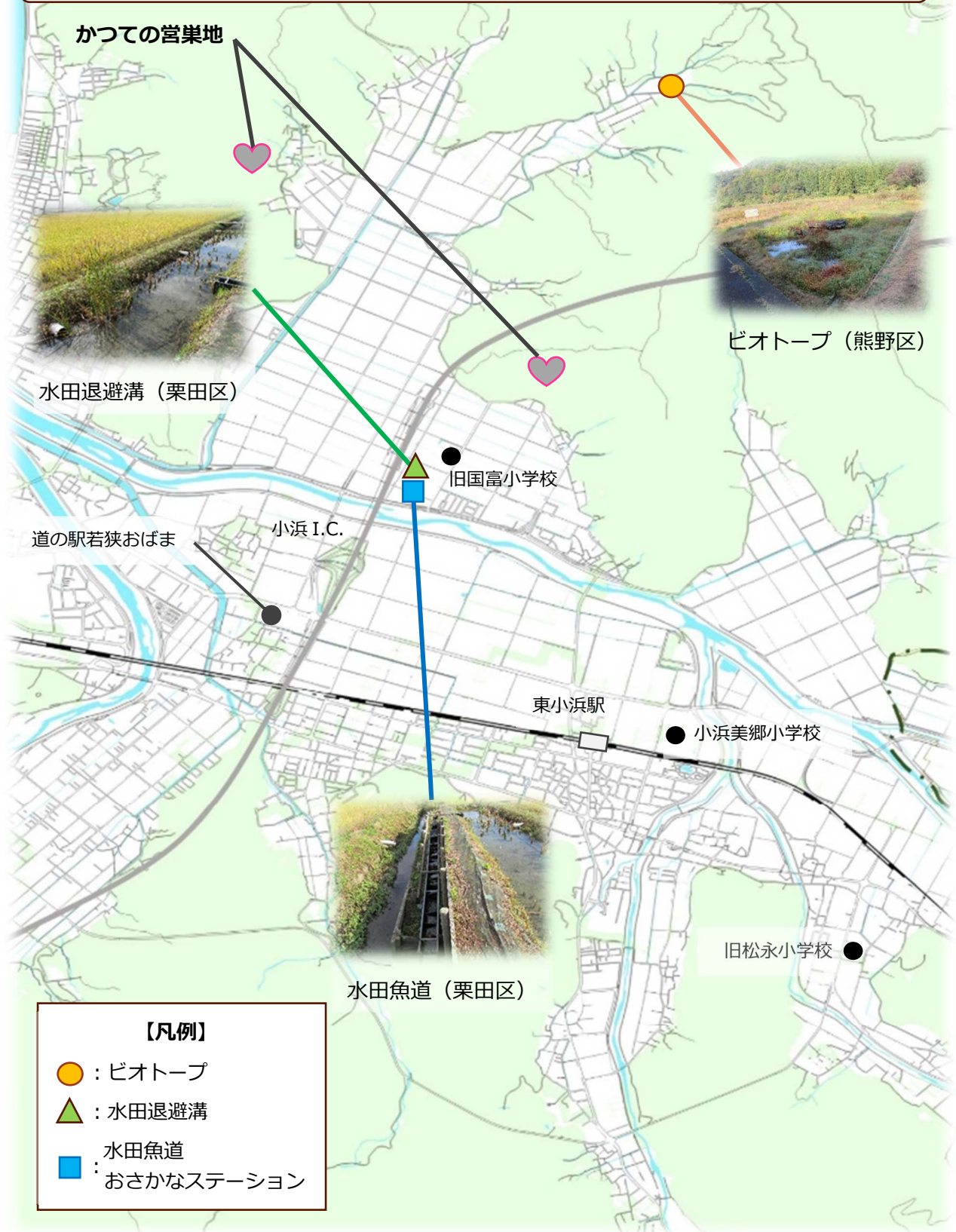
小浜市とコウノトリの歴史

和暦	主なできごと
昭和32年～35年	羽賀区にてコウノトリが繁殖。
昭和36年	羽賀区で2羽の雛が巣立ち、国内最後の巣立ちとなる。
昭和39年	栗田区で2羽がふ化するも死亡、国内最後のふ化となる。 国富小学校コウノトリ観察クラブが発足。
昭和41年	営巣中のオスが農薬中毒で死亡し繁殖失敗。
平成23年	国富地区で「コウノトリの郷づくり推進会（コウの会）」設立。
平成30年	小浜市にコウノトリが長期滞在、国富地区に1号人工巣塔設置。 国富小学校による観察・保護活動が環境大臣賞受賞。
令和2年	新たに国富地区に2号人工巣塔を設置。
令和3年	コウノトリのペアが産卵、3羽の雛が57年振りにふ化し、60年ぶりに巣立ち。
令和4年	コウノトリのペアが産卵、4羽の雛がふ化し、巣立ち。 国富地区に3号人工巣塔を設置。
令和5年	コウノトリのペアが産卵、4羽の雛がふ化し、うち3羽が巣立ち。

参考資料：福井県小浜市におけるコウノトリ繁殖の記録、保全の取り組みと課題、野生復帰（2022）10：11-19。

◆ コウノトリの餌場環境整備

小浜市はコウノトリの絶滅直前、国内最後の巣立ちとふ化が確認された場所です。



【現状】

コウノトリが生息するためには、多様な生物の生息する水田、水路、ビオトープ※、河川等の水辺環境だけでなく、畔や河川敷の草地等様々な環境が必要です。市内では、これまで「コウノトリの郷づくり推進会（以下「コウの会」）」が中心となり国富地区内の水田に休耕田ビオトープ、水田魚道※や水田退避溝※を設置してきました。現在、市内には、水田退避溝2箇所、水田魚道7箇所、お魚ステーション1箇所、ビオトープが3箇所整備されています。また、河川には魚類等の移動を助ける魚道が北川や南川に設置されています。



【課題】

- ・ コウノトリの繁殖地となっている国富地区では、水田への給水が通年にわたりできないことから、水田退避溝等の餌場環境整備の拡大が難しくなっています。
- ・ 小浜市を流れる北川及び南川等の河川は浅い水域が多く存在し、コウノトリの餌となる魚類をはじめとする水生生物が豊富です。河川でも魚道設置や湿地創出などコウノトリの餌場環境整備が求められます。
- ・ 熊野区などでは、山際や谷奥などの耕作されていない水田をビオトープや退避溝、水田魚道などを設けた自然度の高い水田として整備していくことが求められます。
- ・ 餌場環境の整備には、生き物調査など科学的知見から効果的な自然再生の方法を選択する必要があります。
- ・ 現在、小浜市の水田は、ほとんどが慣行栽培です。食の安全・安心そして自然豊かな農村環境を持続的に維持していくために、減農薬や有機栽培など環境に配慮した米作りが求められます。

コラムⅠ

田んぼで生き物を増やす取り組み

水田は、多様な環境が稲の生育とともに形成され、栄養が豊富で洪水等の影響が少ない穏やかな水辺環境です。特に春から秋にかけて多くの生き物が集まり、生物多様性の高い環境です。しかし、圃場整備や大型機械導入による乾田化の影響で水田を利用していた水生生物が減少しています。現在、メダカやトノサマガエルをはじめとする、かつて田んぼで当たり前に見られていた生き物が絶滅の危機に瀕しています。

田んぼの生き物を増やすため、現在市内では水路と田んぼの段差を解消する水田魚道、中干し等の渇水時に水生動物が逃げ込む水田退避溝、休耕田に水を張る休耕田ビオトープといった田んぼの自然再生が取り組まれています。



水田魚道



水田退避溝



休耕田ビオトープ

◆ コウノトリをシンボルとした多面的取組み

【現状】

コウノトリと人との共生の実現には、コウノトリを地域の自然の一部として受け入れ、適度な距離感を保ちながら見守るとともに、豊かな自然環境を示す地域資源として活用していく地域社会が不可欠です。

現在小浜市では、環境基本計画において自然環境の保全の項目で「コウノトリも棲める環境のよい農地保全」と「コウノトリの野生復帰」が重点プロジェクトとして掲げられ、自然環境に配慮した農業生産基盤の適正な管理および「コウの会」等の自然保護活動に取り組む地域団体の支援を行っています。

市内では、環境に配慮した有機農業、冬期湛水、総合的病害虫・雑草管理等が3ha程取り組まれているほか、市内の小中学校では定期的に環境学習が行われています。また、「コウの会」や「(一社)松永あんじょうしょう会」が主催となり、生き物調査や退避溝、水田魚道の見学、星空観察会が実施されています。



美郷小学校での環境学習 (R4年) 休耕田ビオトープの整備 (H24年) コウノトリをシンボルとしたお米

【課題】

- ・ 米価の下落や農業従事者の高齢化が進み、担い手が不足しています。瑞鳥^{みずとり}※として知られるコウノトリの保全再生をシンボルにブランド価値の高いお米の生産を行う等、ビジネスとして成り立つ農業の創出が求められます。
- ・ コウノトリをシンボルとしたブランド戦略を、農産物加工品や伝統工芸等、多様な分野に広げていくことが求められます。
- ・ コウノトリの生息する自然環境の大切さを多くの市民に普及・啓発し、産業、教育、地域、経済等多様な分野が連携・協働しながら生息環境を支える仕組みを構築する必要があります。

コラムⅡ

市内のコウノトリをシンボルとしたユニークな事例

市内を流れる北川、江古川、多田川にかかる橋は、コウノトリが翼を広げている姿がモチーフになっており、「コウノトリ大橋」という名称が付けられているほか、南川にかかる竹原橋はコウノトリのイラストがデザインされています。



竹原橋のイラスト



コウノトリ大橋

トピックス

コウノトリは稲を踏み付ける害鳥？

コウノトリは、水田を主な餌場としています。特に田植えの始まる5月から稲の生長が盛んな7月中頃までは、コウノトリは頻繁に水田に入り様々な餌を採餌している姿を見かけます。かつて、コウノトリは稲を踏み荒らすと農家の方々に思われていたことがあり、コウノトリが飛来した地域では、害鳥ではないかと話題になることがありました。

平成17年から19年にかけて兵庫県豊岡市でコウノトリがどの程度稲を踏み付け、踏まれた稲株がその後どうなるかについて調査が行われました。その結果、コウノトリが稲を踏み付ける割合は1%未満で、踏み付けられた稲も約8割が回復し成長することがわかりました（表1、2）。

現在、コウノトリが稲を踏み荒らす害鳥というのは誤解であったことが、科学的データから立証されています。

表1 コウノトリの稲の踏み付け株数と割合。

項目	H17	H18	H19
コウノトリ歩数	15594	3598	6921
踏付株数	38	25	17
踏付割合 (%)	0.24	0.69	0.25

表2 コウノトリの稲の踏み付け株の回復率。

株数	H18	H19
踏み付け株数	25	17
回復株数	19	13
回復率 (%)	76.0	76.5

参考資料：コウノトリの野生復帰とメタ個体群構築. 野生復帰 (2012) 2 : 3-10.

基本方針

◆ ビジョンの基本方針

このビジョンでは目標とする「自然・食・農が融合し人もコウノトリも豊かに住み続けられる小浜市」を実現するため、以下の3つの基本方針をもとに取組みを推進します。

1. コウノトリが生息できる自然環境の創出

水田、水路、河川、里山の自然再生に取り組み、生物多様性の回復に努めます。

【主な主体】

自然保護に取り組む地域団体のほか、多くの市民の力を合わせて取り組むことが必要です。また、市民・地域団体の自然再生活動の支援および河川の自然再生等は行政が取り組みます。

2. 環境にやさしい農業の推進と農地の保全

環境に配慮した農業を推進し、持続的に自然の恵みを楽しむ農地の保全に努めます。

【主な主体】

農業者、農業協同組合、行政が協力し取り組むことが重要です。また、消費者が環境にやさしい小浜市の農産物を購入することで、農業者を応援することができます。

3. コウノトリと共生する人づくりと経済循環の創出

環境学習や食農教育を推進し、地域の自然や文化を愛し守っていく人たちを育てるとともに、地域資源を活用し環境保全と両立した経済循環を創出します。

【主な主体】

学校等の教育機関、御食国若狭おばま食文化館、市内の関連団体や行政が協力しながら進めます。また、事業者は商品開発、行政は、事業者や生産者と連携しながらブランド化やPR活動を通じ、経済循環の創出に取り組みます。

◆ ビジョンの全体イメージ

ビジョンの全体イメージは、3つの個別の方針の取組みを進めます。また、互いに情報の共有や事業の連携・協働を行いながら全体の取組みを融合し、コウノトリの安定的な定着と繁殖を促進し、ビジョンを実現します。



生き物調査の実施



河川魚道の整備



コウの会のパネル展示



有機圃場生育確認研修

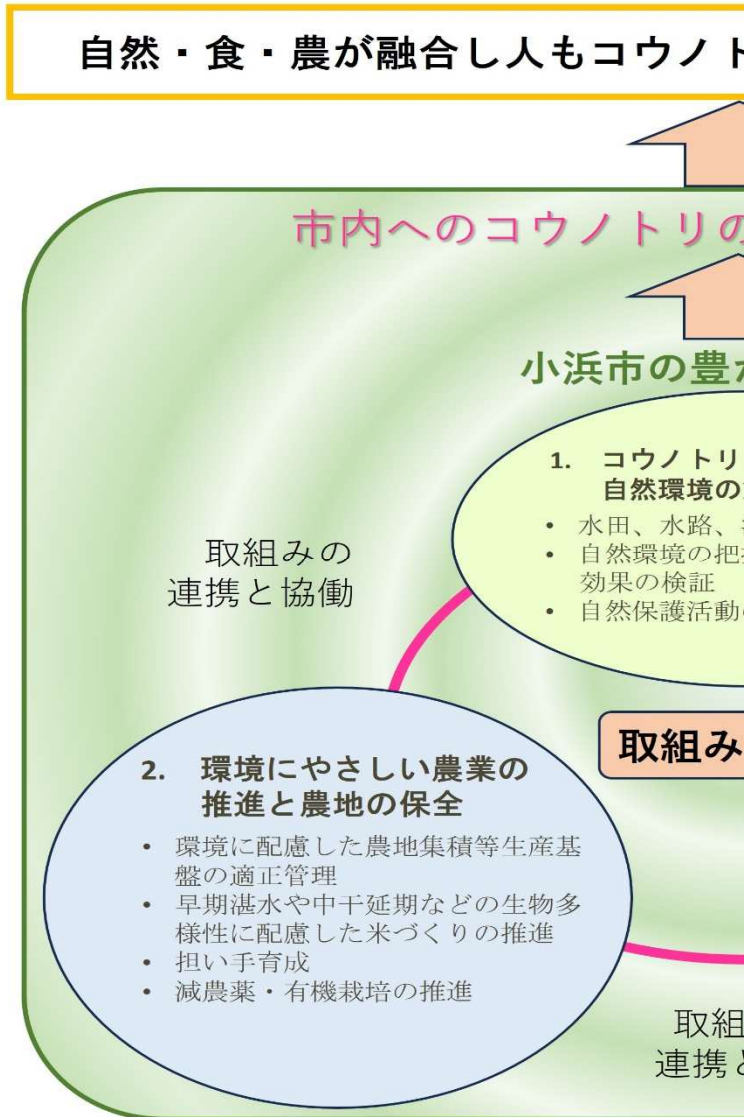


農業の担い手育成



活動団体の応援

※ 小浜第二中学校からコウの会にコウノトリキャップを贈呈(R5.12.20)



トリも豊かに住み続けられる小浜市

の安定的な定着と繁殖

かな自然環境

が生息できる
の創出
河川のつながりの回復
掘と自然再生事業の
の支援

取組みの
連携と協働

の融合

3. コウノトリと共生する人 づくりと経済循環の創出

- 旧国富小学校を活用した市民へのコウノトリの普及と啓発
- 子どもたちへの自然環境教育の実施
- 地産地消と「御食国若狭おばま食文化館」を活用した特色ある食農教育の推進
- 農産物のブランド化と多様な分野での商品開発

取組みの
と協働



親鳥とヒナ



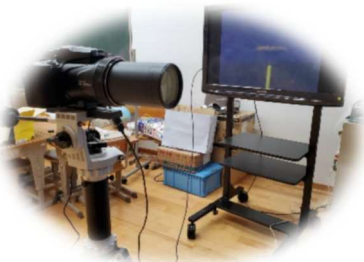
コウノトリ剥製展示



自然環境学習



ブランド農産物



市民によるコウノトリの見守り



食育推進

※ コウの会から美郷小学校に
貸し出された望遠鏡

個別の方針

1 コウノトリが生息できる自然環境の創出

水田、水路、河川等のコウノトリの重要な餌場環境となる水辺環境の創出に取り組みます。また、生き物調査等を通じて自然環境の現状を把握し、再生に向けた取り組みについて検討・検証を行うほか、市内で自然再生に取り組む市民グループや農業者の活動を支援します。

【重点項目】

- 水田、水路、河川のつながりの回復
- 自然環境の把握と自然再生事業の効果の検証
- 自然保護活動の支援

取組事例

【水田退避溝】

山際の排水が悪い場所に整備することで田んぼの排水性と作業効率が向上するとともに、水田に棲む水生生物の保全効果が高まります。



排水の悪い水田に整備された水田退避溝
(越前市)

【生き物調査】

専門家だけでなく地域住民や子どもたちも参加することで地域の自然環境を知ることができます。



子どもたちによる生き物調査 (R4年)



ビオトープ整備 (H24年)

【補助支援メニューの整備】

ビオトープの補助制度などの支援メニューの拡充によって、地域の団体、農業者をはじめ市民の皆さんの持続的な自然再生活動につながります。

2 環境にやさしい農業の推進と農地の保全

コウノトリの主な餌場は水田です。コウノトリの安定的な定着と複数の繁殖地を創出していくために、多くの生き物が生息できる環境にやさしい米づくりの拡大のほか、農地集積等生産基盤の適正管理や担い手の育成を推進します。

【重点項目】

- 環境に配慮した農地集積等生産基盤の適正管理
- 早期湛水や中干延期などの生物多様性に配慮した米づくりの推進
- 担い手育成
- 減農薬・有機栽培の推進

取組事例

【環境に配慮した基盤整備】

農地の集積や自然環境に配慮した基盤整備を地域ぐるみで行い、自然と共生した持続的かつ効率的な農業を目指します。



土地改良のイメージ



有機栽培圃場での中干延期の様子
(引用：越前市ホームページ)

【早期湛水と中干延期】

早期湛水を行うことでアカガエル類の産卵場所を増やします。また、中干延期は、カエルやトンボなどの田んぼの生き物を守る効果があります。



堆肥活用研修会の様子 (R5年)

【施肥活用研修会】

先進地の視察や技術研修会を開催し、堆肥の基本的な使い方やその効果、入手先等を学ぶことで環境に配慮した米作りの栽培技術やノウハウを蓄積します。

3 コウノトリと共生する人づくりと経済循環の創出

コウノトリと人との共生を実現するため、コウノトリを地域の自然の一部として受け入れ、見守っていく地域社会の構築を推進します。市民へのコウノトリの普及・啓発をはじめ、子どもたちへの環境学習や「御食国（みけつくに）」の特色を生かした食農教育*の推進、また、コウノトリに限らず市内の自然環境、伝統産業や農林水産資源等の地域資源を活用し、環境保全と両立した経済循環を創出します。

【重点項目】

- 旧国富小学校を活用した市民へのコウノトリの普及と啓発
- 子どもたちへの自然環境教育の実施
- 地産地消と「御食国若狭おばま食文化館」を活用した特色ある食農教育の推進
- 農産物のブランド化と多様な分野での商品開発

取組事例

【環境大臣賞】

旧国富小学校のコウノトリの観察や生き物調査などの取組みは、第53回野生生物保護実績発表で最高賞となる「環境大臣賞」を受賞しました。



環境大臣賞を受賞した旧国富小学校の児童と関係者（H30. 11. 28）

【ごはん塾*】

ごはん塾では子どもたちをはじめとした、多くの市民に、ごはん食の大切さだけでなくコウノトリを通じて生命のつながりを伝えることができます。



ごはん塾の様子
（引用：越前市ホームページ）



兵庫県豊岡市の認証ブランド農産物
（引用：豊岡市ホームページ）

【コウノトリ認証ブランド】

兵庫県豊岡市や埼玉県鴻巣市では、コウノトリをシンボルとした農産物や商品にブランド認証を行い、経済循環の創出を推進しています。

コラムⅢ

小浜市のコウノトリを支える体制づくり

小浜市では、コウノトリを保全し人と共生する社会を構築するため、コウノトリに関係する様々な立場の人々が意見を交換し、それぞれの立場での取組みを協議・共有する場として「小浜市コウノトリと共生する郷づくり推進協議会(以下、「推進協議会)」」を設けているほか、クラウドファンディングを実施し、人工巣塔の設置やビオトープ整備等について市内外の多くの方から活動を応援していただいています。行政以外にもコウノトリが繁殖する国富地区では、地元中学生が全 24 種のコウノトリ LINE スタンプを発売し、売り上げを環境保全活動に寄付する等コウノトリの生息環境づくりを支える活動が広がりつつあります。



推進協議会の様子

ふるさと納税クラウドファンディング 挑戦中!

コウノトリが舞う豊かな環境を未来へ
-コウノトリと共生する地域づくり-

≡ 目標金額30万円 ≡

【寄附コース】
3千円、5千円、1万円、3万円の4コース
※小浜市の方でもふるさと納税の寄附控除の対象となります

【募集期間】
R5.9.7 (木) ~R5.10.22 (日)

小浜市では3年連続で雛の誕生と巣立ちとなりましたが、まだまだコウノトリの保全活動を知らない方がたくさんいます。より多くの方に、コウノトリをシンボルとした環境保全に興味をもっていただき、環境保全の輪を広げていきたいと考え、3回目のクラウドファンディングに挑戦します。コウノトリをシンボルとした生物多様性や自然環境の保全・再生を推進するためコウノトリビジョン(仮称)の作成、現場調査を基にした調査調査を実施します。

ご支援よろしくお願ひします!

【お問い合わせ】
福井県小浜市大手町6番3号
小浜市役所 環境福祉課
TEL 0770-64-6016

レディーフォー 小浜市 コウノトリが西の 校舎
<https://readyfor.jp/projects/125796>

クラウドファンディングのチラシ

小浜コウノトリ
ラインスタンプ

全24種
120円で販売中

LINE スタンプの例 (1つ120円で販売)

資料編

【語句の説明】

※ ビオトープ

ドイツ語で生物を意味する Bio と場所を意味する Tope の合成語です。「野生生物の生息空間」などと訳され、生き物がたがいにつながりをもって生息している空間を言います。環境が損なわれた都市部や公園、農村部の耕作放棄水田などに、鳥類、魚類、昆虫や植物等、特定の生物群集が生息できるようにつくられた空間を示して使われることがあります。

※ 水田魚道

ほ場整備によって水路と水田に生じた段差や水域の分断を解消し、魚などの水生動物の移動経路を確保するため、主に水田と水路の間に設置される魚道で、コルゲートパイプや U 字溝に隔壁を設けたもの等、様々なタイプが存在します。水田魚道の設置により、ドジョウやフナなどの魚類が水田に遡上し、産卵場所として利用することができるため、魚類の保全に効果が期待できます。

※ 水田退避溝

田んぼの一部を溝状に掘り下げることによって、水生生物が中干しや稲刈り時などの渇水時に退避する場所を設けます。退避溝と水田の間を隔てる畔がある場合には、畔にパイプを設置することで生き物が移動しやすくなり、水生動物の保全効果が高まります。また、しみ出し水を排水するための「江」と呼ばれる溝や用水を温めるため設置されている「ヌルメ」と呼ばれる小水路も同様な機能を持ちます。

※ ごはん塾

子どもたちと子育て世代の保護者をターゲットに、ごはんを食べる食習慣の大切さ、食と身近な農業とのつながり、いのちの大切さなどについて学ぶことを目的に実施するもので、神戸大学名誉教授の保田茂先生を中心に兵庫県で始まったプログラムです。子どもたちは、かまどでご飯を炊く体験を通してご飯を炊くことを学びます。また、保護者はご飯が炊けるまでの間、ごはん食(日本型食生活)を中心とした食事バランスの大切さ、食を通じた子育て、家族の絆、健康に関すること、農業の大切さなどの講演を聞きます。

※ 瑞鳥

めでたいことが起こる前兆とされている鳥のことです。

※ 食農教育

「食農教育」とは、私たちの食べ物「食」と食べ物を作り出す農業「農」のつながりを、体験しながら学ぶ取組みです。各地の幼稚園、保育園、小中学校やイベント等において、お米や野菜の栽培体験、自分たちの育てた作物の調理体験や給食への使用、消費者と生産者の交流事業など「食」と「農」をつなぐ様々な取組みが行われています。

小浜市コウノトリと共生する郷づくり推進協議会設置要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、地域や行政、関係機関が協働し、国の特別天然記念物であるコウノトリの保全、再生、定着および地域の生物多様性の保全推進、また、それらを通じた小浜市のブランド価値の向上を図ることを目的として、それぞれの立場での取り組みを協議・共有する場として小浜市コウノトリと共生する郷づくり推進協議会（以下「協議会」という。）を設置し、その必要な事項を定める。

(取組事項)

第2条 協議会は、次の各号に掲げる事項について取り組む。

- (1) コウノトリが共生する郷づくりの推進に関すること
- (2) 生物多様性の保全推進に関すること
- (3) 地域ビジョンの策定・推進に関すること
- (4) その他協議会が定めること

(組織)

第3条 協議会は、別表に掲げる個人または団体により構成する。

2 取組事項との関わりが深く協議会への出席が必要とされる者は、協議会の求めに応じて、オブザーバーとして出席することができる。

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし再任を妨げない。

(会長および副会長)

第5条 協議会に、会長1名、副会長1名を置く。

- (1) 会長は、会員の互選により選任する。副会長は会長が指名する。
- (2) 会長は、協議会を代表し、その業務を統括する。
- (3) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代理する。

(事務局)

第6条 協議会の事務局は、小浜市民生部環境衛生課に置く。

(委任)

第7条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

この要綱は、令和5年 2月21日から施行する。

附 則

この要綱は、令和5年 8月29日から施行する。

別表

	個人または団体
有識者等	田原 大輔
	農業者
関係団体	コウノトリの郷づくり推進会
	国富地区土地改良区
	日本野鳥の会福井県嶺南ブロック
	小浜市立小浜美郷小学校
	国富の郷づくり協議会
	宮川まちづくり協議会
	松永まちづくり協議会
行政	遠敷まちづくり協議会
	福井県安全環境部自然環境課
	小浜市産業部
	小浜市教育委員会

小浜市コウノトリと共生する郷づくり推進協議会 委員名簿

No.	所属	氏名	役職
1	福井県立大学海洋生物資源学部 教授	田原 大輔	会長
2	国富の郷づくり協議会 会長	森 喜太郎	副会長
3	コウノトリの郷づくり推進会 副会長	宮谷 和夫	
4	コウノトリの郷づくり推進会 事務局	出口 雅浩	
5	国富地区土地改良区 理事長	山本 哲三	
6	農業者代表（国富地区）	高鳥 佐太一	
7	農業者代表（宮川地区）	松尾 志信	
8	農業者代表（遠敷地区）	和田 千代	
9	日本野鳥の会福井県嶺南ブロック 嶺南ブロック長	平城 常雄	
10	小浜市立小浜美郷小学校 校長	田中 悟	
11	（一社）宮川グリーンネットワーク 代表	竹中 忠	
12	（一社）松永あんじょうしょう会 会長	西田 尚夫	
13	遠敷まちづくり協議会 理事	芝崎 末廣	
14	福井県エネルギー環境部自然環境課 課長	片山 博之	
15	福井県エネルギー環境部自然環境課 参事	西垣 正男	
16	福井県エネルギー環境部自然環境課 主事	小林 滉平	
17	福井県エネルギー環境部自然環境課 主事	近藤 一宏	
18	小浜市産業部農政課 主幹	北村 宗之	
19	小浜市産業部農政課 課長補佐	奥村 直己	
20	小浜市産業部里山里海課 主幹（ブランド戦略推進官）	上村 洋亮	
21	小浜市教育委員会教育総務課 主幹	松宮 克行	

※ 構成委員については、適宜変更することがあります。

オブザーバー

No.	所属	氏名	役職
1	合同会社ローカルSDクリエーション 代表社員	三田村 佳政	

小浜市コウノトリビジョン

令和6年3月発行

編集・発行：小浜市（民生部 環境衛生課）

〒917-8585 福井県小浜市大手町6番3号

TEL：0770-64-6016

FAX：0770-53-1016

<https://www1.city.obama.fukui.jp/index.html>

E-mail: kankyouseisei@city.obama.lg.jp



小浜市 HP
